

深秋と初冬のウィーン

(2013年11月18日出国－11月23日帰国、12月7日出国－12月15日帰国)

今回はひと月の間に2度の渡欧。今年2回目と3回目だ。12月は思ったほど寒くはなかった。この旅行記はといえばいつもまして脱線が多い。ウィーンの街はどんなだったかを期待する読者には時間の無駄になることを請け負います。

11月18日(月)

バスで成田空港へ向かう途中、大洗海岸付近でふと海を見ると、何隻かの舟が、まだ高度が低い太陽の光を受けてきらきらしている水面に浮いている。何の漁だろうか。最近大洗は漁でも映画でも盛り上がっているらしい、などと思いながらウトウトする。

成田空港第一ターミナル南ウィングでチェックイン。今回仕事は3日間、出張全体で6日間。短いからだろうが預ける荷物の重量は9.45 kgと軽い。次回の出張は12月にまたもやウィーンと決まっているが、このときは8日間で、真冬となれば荷物は増えるでしょう。

オーストリアン航空 052 便 12:25 成田発。

機内は日本人が少なくオーストリア人と思われる一行が多数。隣の人をチラチラ見ていたら楽譜を眺めている。どうやら音楽のイベントが日本であった帰りのようだ。

機内で選べるコーヒー。せっかくだからという貧乏根性が出て、今まで試していない「Maria Theresia」を。ブラックコーヒーにオレンジリキュールを加えたホットコーヒーでグラスで出される。僕にはリキュールが強すぎだ。

機内ではひたすら書面と向き合う。機内誌と仕事の書面と読書『虚数の話』(青土社)と。

まず機内誌『一望千里』(オーストリア航空日本語版機内誌 2013年号…1年に1冊しか出ないのか?)。シュテファン寺院とスロヴェニアが特集されていた。

スロヴェニア共和国 (Republika Slovenija) はオーストリアの南に隣接する、四国ぐらいか、あるいはスイスの半分くらいの大きさの国だ。人口は205万人、首都はリュブリャナ、言語はスロヴェニア語。東はクロアチア(首都ザグレブ)に接し、西はイタリア(トリエステの部分)に接し、わずか46.6 kmの海岸線だがアドリア海に臨む。

その特集記事によれば…:スロヴェニア人としての起源は6世紀にまで遡る。20世紀に入るまで神聖ローマ帝国、ハプスブルク帝国、ヴェネチア共和国、フランスなどの統治下にあった。スロヴェニア人は南スラブ系の民族で、同じ南スラブ系のクロアチア、セルビアとともに1918年、後にユーゴスラビア王国となる国を形成した(同じ民族ならなぜ3つに分かれているのか、と素朴な疑問)。ユーゴは“南”、スラビアは“スラブ人の”を表し、

つまり「南スラブ人の国」という意味だ。第二次世界大戦後にはユーゴスラビア社会主義連邦共和国となる。そして、20年前1991年のユーゴスラビア紛争でわずか10日間という短い内戦を経、いち早く『スロヴェニア共和国』として独立した。

ちなみに、民族は同じスラブ人ですが、スロヴァキアとは違いますからね。気をつけましょう。スロヴァキアはかつてドイツに無理にチェコと合体させられてチェコスロヴァキアという国だったところ、1989年の民主化革命(ビロード革命)を経て1993年に連邦を解消しました(ビロード離婚)。ユーゴスラビア紛争のような武力衝突を免れたことから、チェコスロヴァキアの民主化を「滑らかな布」にかけて「ビロード革命」と西側メディアが呼んだ。

『虚数の話』(プール・J・ナーイン著、青土社)を読み耽る。虚数($i=\sqrt{-1}$)と複素数($a+ib$)は数学に奇跡をもたらした、というのは何だかわかるような気がする。

複素数の世界の中心をなすのはオイラーの公式 $\cos \theta + i \sin \theta = e^{i\theta}$ である。ここから導かれる $e^{i\pi} + 1 = 0$ は、米国のノーベル物理学者・故ファインマンが15歳を前にして「数学における最も注目すべき式」と日記に書いたという(もっとも著者のナーインは大袈裟だと言っているが)、そして日本では小川洋子さんの『博士が愛した数式』で有名になった。数学の中心を成す5つの要素が全て入った単一の式という意味では注目すべき式らしい。5つとは、 e 、 i 、 π 、 0 そして 1 だ。

高校の数学では対数の真数は正(>0)だと教えられたが、それは実数の世界の話。虚数を導入すれば対数関数は複素数の世界へ広がる。三角関数もしかりだ。 θ に複素数を許せば $\cos \theta = 2$ があり得る。この辺りのへへ〜という数学のお話は文末の付録に回そう。電気工学は複素数なくては発展しなかった。そして、星の軌道を記述するケプラーの公式さえ、複素数の導入で解決したのだ。

オイラーはスイス人だが、数学の世界ではフランスからは珠玉だ:デカルト、ラグランジェ、コーシー、ラプラス、ライプニッツ、ド・モアブル、ベルヌーイ。そしてドイツのケプラー。数学の基礎は17世紀から19世紀にかけて欧州が作ったということがよくわかる。

ところで、この本の和訳は極めて評判が悪い。ウェブで調べてみると、翻訳者のK田氏は質の悪

い訳で有名ならしい。誤訳もあるが、まじめに取り組んでいない。この本の日本語もいかにも機械翻訳だ。ホームページで検索してみると厳しく評価する声も掲載されていて、反対はしない。何しろ恥ずかしい限りの訳なのだ。意味がわからない文章もあり、僕も日本語のところは少なからず飛ばし読みをした。数式だけ追っても読み進めることが出来る内容だからいいが、翻訳書としては完全に失格。発行社はどういうつもりなのだろうか。この翻訳で本書の評価が下がるとなれば著者には極めて失礼だ。

この本の続編の『オイラー博士の素敵な数式』(日本評論社)を今読んでいるが、こちらは、訳者は数学者であり、とても丁寧に訳してあると感ずる。ただ残念ながら僕の数学的知識では理解がなかなか難しい。

ウィーン・シュヴェヒャート国際空港に定刻 16:25 より早く到着。同行の T さん、D さんとバスで市街地に向かうことに。着陸時にまだ微かに黄昏だった空は空港の建屋を出たときにはすっかり暗くなっていた。T さんと D さんは同じホテルだが、僕のホテルは違う。それもいつもの、南駅の前 Hotel Prinz Eugen (プリンツ・オイゲン) でなくて、ウィーンで初めて Prinz Eugen 以外のホテルに挑戦。そこで地図をプリントアウトして持参したのだが、その地図をみるとどうもおかしい。思っていた市街地北東ではなくて南のカールスプラッツ辺りを示している。一体どこのホテルの地図を印刷してきたのか。おおぼけだ。

バスは地下鉄 U1 線のシュヴェーデンプラッツ (Schwedenplatz) 駅に到着するから、もしカールスプラッツ辺りなら方向違いだ。

ウィーン事務所駐在者に携帯メールで尋ねる。H 所長から返事が来て、地下鉄 U1 線のフォルガルテンシュトラッセ (Vorgartenstraße) 駅が最寄りの駅だという。これで方向違いの心配はなくなった。有難い。しかし、地下鉄を降りてからの行き方がわからない。今度は事務所長ではなくて事務所に電話で聞くことにした。ダメもとで「迎えに来れない？」と聞いたが「規則で禁じられているし…」という返事。しょうがない、とにかく地下鉄の駅まで行ってそこで誰かに聞くか。

とにかくバスに乗る。バスは初めてだ。片道 8 ユーロ (1,056 円; 1 ユーロ=132 円)、往復なら 13 ユーロ。途中、先の事務所に携帯メールが来てホテルの場所を示す Google の地図を送ってくれた。これで助かった。

バスは空港から 20 分ばかりでシュヴェーデンプラッツへ到着。地下鉄駅で 3 日間有効のチケットを買い (15.40 ユーロ)、3 つ目の駅、フォルガルテンシュトラッセ駅で下車。T さんと D さんは手前のネシュトロイプラッツ (Nestroyplatz) 駅で下車。フォルガルテンシュトラッセ駅を進行方向先端の

プラットフォームから地上に上がるとフォルガルテン通りであり、プラットフォーム最後尾から地上に上がるとラディンガー通り (Radingerstraße) である。ホテルはラディンガー通り沿いにある。少しさびしい感じのこの通りを 10 分も歩けば角に目的のホテルを見つけた。ホテルは Accor 系列で、

Suite Novotel Wien City
Radingerstrasse 2

suitenovotel.com/gb/hotel-3720-suite-novotel-wien-city-ex-messe

部屋代が 1 泊 79.20 ユーロ (10,450 円)、朝食が 13 ユーロ (1,720 円) だから 1 泊あたり 92.2 ユーロ (12,170 円)。4 泊合計で 368.8 ユーロ (48,680 円)。

ところで地下鉄の料金だが、3 日間有効のチケットは 15.40 ユーロ (2,030 円、2013 年 7 月 1 日に料金値上げ。旧料金は 14.50) だが、1 週間定期は 15.80 ユーロ (同 15.00) で 3 日間チケットと殆ど変わらない。ただし、1 週間定期と言うのは月曜から次の月曜朝 9 時まで有効ということらしい。ということは火曜日から日曜日は販売していないのか? 今度確かめてみよう。ちなみに、24 時間フリーパスは 7.10 ユーロ、48 時間フリーパスは 12.40 ユーロ。1 ヶ月定期は 47 ユーロ (その月の 1 日から翌月の 1 日まで有効)。

ホテルの部屋は写真のとおり広く (30 m²)、ダブルベッド+ソファベッド。電子レンジまでついている。

風呂 (2 番目の写真の右奥の明るいところ) は浴槽とシャワー室が別にある。奇妙なのは、写真のように、風呂に扉がないこと。部屋を予約する時選択肢が少なくてやむを得ず選んだ部屋だったが、シングル二人だと風呂に入りにくい。それから浴槽にカーテンがない。だからつまり浴槽は単に浸かるだけで、体を洗うのはシャワー室でどうぞということなのだろう。

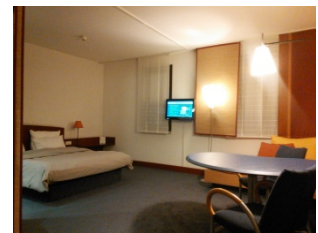
机は広くてバッチリなのだが Wi-Fi 不備。有線 LAN を使ってメールチェックするが遅い…。

22 時頃就寝。日本では朝 6 時か。

11 月 19 日 (火)

仕事初日。

朝 3 時 (日本時間 10 時) 起床。パソコン仕事をし、入浴、7 時に朝食。7 時では外はまだ暗い。朝





食は満足。左の写真は、階段を下りて行く途中で撮った中庭の写真。木々が揺れていて風がありそうだ。

7Fにあるこの部屋を 0822 に出て階段で 1F まで降り、地下鉄駅まで直行。ちょうど到着した電車に乗ったものの、動き出してから逆方向だったことに気づき、次の駅 Praterstern で逆方向の電車に乗り換える。3 つ目の駅で降りればすぐそこが職場への入口だ。空港並みの荷物チェックを受け、ID カードをもらって仕事場に着いたのは 8 時 45 分頃。通勤時間は 15~20 分程度だ。

昼食は職場の食堂で、例によってボリュームたっぷり。それでも麺だったからか安くて、サラダと合わせて 5 ユーロに満たなかった。

夕方 6 時過ぎに仕事が終わって、地下鉄 U6 のブルガッセーシュタットハレ駅 (Burggasse-Stadthalle) に向かう。そこから 10 分ばかり歩いたところにある「火鶏 HIDORI」という日本料理レストランで同行の Y 田さんと会食。

火鶏

HIDORI

Burggasse89, A-1070, Wien

TEL: +43 1 52 33 900

hidori.at

地図で見るといわゆるリンクからは随分西の方だ。街中から行くには、シュヴェーデンプラッツ駅で地下鉄 U1 から地下鉄 U3 に乗り換え、バス道のブルク通り (Burggasse) を東へ。ショッテンフェルト通り (Schottenfeldgasse) との交差点の角で、Google 地図にも掲載されている。焼鳥屋さんと聞いていたが、海鮮料理を始め日本の居酒屋にあるメニューが揃っている。日本酒も。ただ、スタッフ不足かも。

帰りは店を出てブルク通りを東へ少し歩いたところでバスに乗り、2つ3つ先でリンクにぶつかったところがフォルクステル (Volkstheater: 国民の劇場)。ここで地下鉄 U2 に乗りカールスプラッツ、U1 に乗り換えてフォルガルテンシュトラッセ、そしてホテル帰着。

11月20日(水)

仕事 2 日目。

昼は知人と職場のレストラン。ザワザワした山盛りの方じゃなくて、あらかじめ予約しておく奥の方。ただ、経営は同じだから味は同じ。

夕食は日本人 10 名ばかりで、ウィーン大学近くの路地に入って行ったところにある店

Melker Stiffs Keller

Schottengasse 3

melkerstiftskeller.at

にて会食。地下鉄 U2 のショッテン通り

(Schottengasse) 駅から徒歩数分のところにあり、以前 2 度ばかり来たことがある。地下 1F、2F にとても広い部屋、つまりセルがある。

アルコールも食事もあり進まず、帰りは街中に向けて、つまり南に向けて歩く。以前歩いたのに迷う。観光客用のケルトナー通りを目指して歩いているうちに大きくはない交差点に出た。どこかわからない。近くを通り過ぎようとする若い男性に「シュテファン寺院は？」と聞いたら、「すぐそこだ。あれ。」と指さしてくれた。確かにすぐそこだ。あとで地図を見ると、ホーアーマルクト (Hoher Markt) とかいう通りから出て来たらしい。

ホテルへ戻った頃は夜 8 時とか 9 時頃だから日本時間では明け方でとても眠い時刻。だからホテルに戻る途端ベッドインということになるが、3 時間もすれば、つまり零時とか午前 1 時とか 2 時になり、それは日本では朝の遅めの時間帯。それでノソノソ起き出してメールチェック、朝方シャワーを浴び、7 時になれば朝ご飯を食べに降り…これが日課。

今日ふと気がついたのだが、この部屋は真ん中で仕切れるようになっている。右の写真のようなパーティションを引き出せる。風呂とベッドはパーティションの向こう側にあり、デスクはこちら側にある。シングル二人で居たとしても、入浴中はこれで落ち着けるか。



11月21日(木)

仕事最終日。売店で絵葉書や地図を買う。合計 31.85 ユーロというから 4,200 円か。売店はすでにクリスマス模様。クリスマスでしか使えない綺麗な絵葉書を数枚。それからコンパクトなウィーンの地図 5.90 ユーロと 3 次元の浮かび上がる写真をあしらったしおり 1 枚。

午後仕事は早めに上がったので買物に出掛ける。まず上司に教えてもらったパン屋。パンなど買って日本へ持ち帰るのか、と思うが、彼はそうしたらいい。それほど魅力的なパンか。ともかくは店を覗いてみるか。

観光客で賑わうケルトナー通りから、シュテファン寺院の前を西に折れた短い通りが、高級店街グラーベン (Graben)。その突き当たり、コールマルクト通り (Kohlmarkt) にぶつかったところが有



名な輸入雑貨店の「ユリアス・マインルー」(Julius Meini: <http://www.meinlamgraben.at/page.aspx>, <http://shop.meinl.com/default/japan>) だ。

そこを右手に曲がり、ルイ・ヴィトンまで行くと行き過ぎで、その手前の細い道 (Naglergasse: ナグラーガッセ) を入る。間もなく左手に、店内に客が列を成すパン屋がある。それが目当ての Joseph だ。



Joseph
Naglergasse 9
joseph.co.at

高級パン屋さん。見た目ウィーンならどこでも売っていきそうな丸くて大きなパンなのだが、こんなに人気があるのを見るとおいしいのでしょうか。パンの名前も知らず、列に並ぶのもげんなりで結局断念。

それから土産だ。仕事場への土産。出張前、「うちの部署は外国出張が多くて皆何かしら買ってくる。外国からはやたらチョコレートばかりだし、食傷気味だろうからもういいでしょう」と言ったら、「チョコレート以外のもの期待しています」と言われた。そう言われたからには何かをと思いつながら、ケルトナー通りの店を歩いても、チョコレート以外目に入らない。

実は今日職場の売店で来年のカレンダーを売っているのを見た。ウィーンやオーストリアの風景のカレンダーだ。ただ、売店では品数が少ない、街中の店へ行けばもっとあるだろうと思っていた。で、昨夜 Melker Stiffs Keller で食事をした帰り、中心部の路地で迷っていたとき、迷いながらもホーアマルクト通り沿いの文房具店 2 店に目を留めていた。西洋の街は文房具店、というかわゆる paper shop がとてもしっかりしている。

昨夜は遅くてすでに閉店していたが、今日はまだだ。そこでその店へ。「Just looking ですから」と常套句を言いながら眺めまわし、めくってはみたものの…残念ながら欲しいと思うようなカレンダーは見つからなかった。ふたつくらい買って事務室の壁に掛けておこうかと思ったのだが。しかし、片方の文房具屋さんは奥行きがあり、時間があれば just looking でなくてじっくり物色してみたかった。

約束の時刻が迫っていた。シュテファン寺院へ。これまでメール上でしか知らなかった仕事仲間のタマラ・ヤンコビッチ (Tamara Yankovich) という女性と寺院前で待ち合わせだ。夕刻 6 時ぎりぎりに教会正面に立ったら向こうから近付いて来た。東洋人で一人だからすぐに分かったのだろう。眼鏡をかけた 30 歳くらいのこやかな女性だ。单身

赴任中。日本でなくてもあるんだ、タンシンフニン。彼女は僕の次回ウィーン行の記録 (次ページ以降) の写真に現れる。

離日前から機会があれば会いましょうと言っていて、ウィーン入りした後もメールでやりとりしていた。ディナーをと言われていたが、僕は日本人仲間に誘われていた先約 (下記イタリアンレストラン) があったので一旦断ったものの、コーヒーだけでもということになった。

そこはコーヒーだけで終わるわけではなく、彼女の案内で街中でビール。ザイラー通り (Seilergasse) という小路に面した「Bellini」とかいう小さな店。この時刻、目立たない小さな店でないと空き席がなかったのだ。彼女はワインの何とかを注文していた。僕はビール 2 杯で 9.00 ユーロ。

何か話してないと心配になる性癖の人なのだろう、次々とよくしゃべる。最初はそこそこに終わりにしようと思っていたのだが、そのまま後半戦のイタリアンレストランに連れていくことにした。問題なく打ち解けるだろう。典型的な北アメリカ人、と言ってしまうと偏見か。

小雨の中、リンク (オペルンリンク) を横切って、一筋目のエリザベート通り (Elisabethstraße) を西へ向かう。公園らしき広場を左手に見ながら (暗くてよくわからなかったが) まもなく「La Scala」の看板が目に入る。

La Scala
Elisabethstraße 13
lascala.at



H ウィーン事務所長のほか、今回日本から参加している T さん、Y さん、D さん、O さん。予告なく一人連れてきたが、皆さん彼女をすんなり迎えてくれて感謝。タマラ (いわゆるニックネームではタミィ (Tammy) と呼ぶらしい) をお誕生席に据えて、明るくていい感じの店内でワインとピザとスパゲッティと。タミィの英語は早いがとてもわかりやすいと H 所長。それでも僕は付いていけないが、楽しく過ごして散会。彼女の住まいはこの近くらしい。ウィーンに半年前に赴任してきたばかりで、アパートにはまだ荷解きしていない荷物があるなども

11月22日(金)

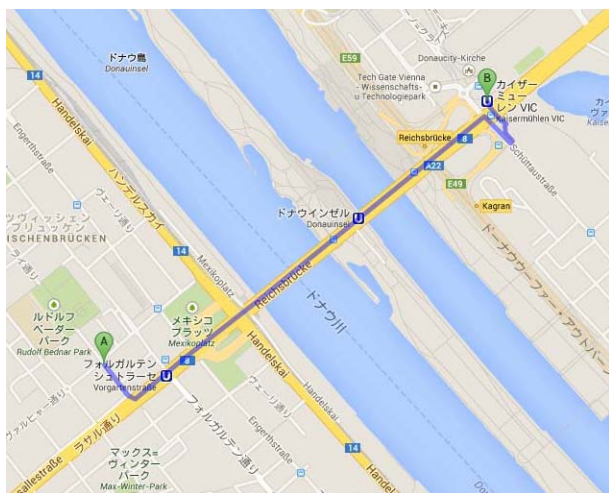
帰国の途に。

例によって未明から起きたまま朝を迎える。暗いうちに荷物は整えた。忘れ物しないように念には念を入れた。どうせまた来るだろうと思ってもここウィーンで大事なものを忘れてもしたら面倒で仕方ない。今回は大丈夫だろう。「だろう」としか言えないのが情けないが、これまでたびたび出張先で置き忘れをしてきた。不思議なことに外国より国内旅行が多い。ヘアムースはこれまで複数回。この前は福島のホテルにズボンとベルトを置いて来てしまった。幸い保管期限の1ヶ月以内に再度福島行があったので同じホテルに宿泊して回収。それから、たまに二つのバッグを持って出張したら、JR北陸線の米原で降りるときに新幹線車内にひとつを置き忘れ、福井へ向かう特急の中で思い出した。その新幹線は大阪まで行ってしまったので、翌日福井から大阪駅へ取りに行く羽目に。大阪駅滞在10分くらいでとんぼ返りした。それにしてもその新幹線が大阪行きでよかった。福岡行きだったりしたら大変だった。それにやはり日本は親切だ。誰も盗みはしない。

日本の職場へのウィーン土産はまだ買ってない。「ウィーンでチョコレート以外のお菓子を買うのは意外と難しい」などと言いつつ考えている間にウィーン滞在期間が過ぎ、ついに最終日。土産物屋へ行く時間もなくなってしまった。

ホテルをチェックアウト。ここからドナウ河向こうにある職場への徒歩通勤はついでチャレンジしなかった。ホテルはドナウの西岸、職場はドナウの向こう側。ドナウを歩いて渡るには一直線にすぐ近くなのだ(下のGoogle地図参照)。ホテルの最寄りの駅の次がドナウ川に係る鉄橋の上にあるドナウインゼル駅、その次が目的地のカイザーミュレンVICだ。下の地図では1.9kmだ。以前地下鉄が不通になり乗客は橋を歩いたことがあったらしい。それも冬に。今も寒いだろうな。いずれ試してみよう。

さて、空港への戻りは来た時の逆のルートだ。ホテルから出て地下鉄に乗り、シュヴェーデンプラッツ駅で地上に出て空港行きのバスに乗る。バ



ス停の場所を思い違いしてうろついたが見つからず、道行く人に聞いても、平日の出勤時間が過ぎた朝10時過ぎにその辺りを歩いている人はおそらく地元の人ではなく、わからないと答えられ、目についた小さな土産物屋のおじさんに聞く。

1030発のバスは10人そこそこの客を乗せ空港へ。

そうそう土産。最後のチャンスは空港内の免税店だ。居並ぶチョコレートチョコレートチョコレートの中にひとつだけ見つけた、クッキー。引っ掴むようにレジへ。幾らだったか忘れた。どうせ安物だし、と思っていたが、帰国してから事務室から還流してきた分を味見したらそこそこイケル味だった。次回もこれでいくか。単純だなあ。

オーストリア航空051便1305ウィーン発。機内ではまた『虚数の話』の続きを読み、眠くなったので眠る。

11月23日(土)

朝8時成田着。今回もまた怪我も病気も盗難もなく無地帰国。9時過ぎのバスで水戸駅へ。次は2週間後、12月だ。

■■■ 2週間 ■■■

12月7日(土) 成田は晴れ、ウィーンは曇り

冬のウィーンは初めてだ。ウィーンの事務所からは雪が舞う風景の写真が送られてきた。クリスマス飾り付けがされた街の様子も。

昨夜仕事帰りにドラッグストアへ寄り、ホッカイロを買う。ウィーンでの通勤退勤時もさることながら、今回の仕事は明日日曜日からいつものビルで始まる。朝から終日報告書の相談だ。週末には暖房が入らないからこれが恐怖だ。事務局からは「当日は食堂もない、コーヒーコーナーもない、暖房もない。しかし、パソコンとプロジェクターはあるのでcomfortableに仕事ができるだろう」と半ば冗談かと思うメールが届いていた。とにかくこの初日対策のためにホッカイロだ。ポケットに入れておこうと思う。エステの「オンパックスミニ」と、桐灰化学株式会社の衣類の上から貼る「動くたびにフワッと香りに包まれる 香るカイロ さわやかアップル&フローラル」¹。

¹ 「ホッカイロ」などと呼んでいるが、これは商品名称だ。東京は東上野に本社を置く防虫剤、脱臭剤、化粧品、殺虫剤などを製造販売する総合日用品メーカー株式会社白元(はくげん)の商品の名称であり、製品名

航空機愛称	Sound of Music, Heart of Europe, Dream of Freedom, Spirit of Austria
座席数	ビジネス 48 / エコノミー 260
座席前後間隔 (シートピッチ)	ビジネス 111.7cm; エコノミー 78.7cm/83.82cm
全幅	60.9 m
全長	63.7 m
全高	18.8 m
最大巡航速度	1,030 km/h
最大運用高度	13,100 m
エンジン	General Electric, GE 90-90 B
エンジン推力	2×90,000 lbs
最大燃料容量	135,880 kg
最大航続距離	6,200 NM, 11,500 km
最大積載重量	61,600 kg
最大離陸重量	294,835 kg
最大着陸重量	208,652 kg

ところでパソコンに接続可能な「プロジェクター」はヨーロッパでは beamer と云います。ビームを出す奴という意味ですね。北米では通用しないらしいから注意して下さい。北米では、定かではありませんが、projection equipment か projector でしょう。

今回の旅行期間は9日間と少し長く、かつ冬とあって荷物がかさばる。いつもより大きな旅行ケースを持ち出した。チェックイン時の計量によれば 13.7 kg。前回は 10 kg を切っていた。

荷物検査と出国審査をさっさと済まし、旅行保険 (5,000 円) とユーロ (1 ユーロ=143.34 円) を買う。ユーロは3週間前より高くなっている。2万円出しても 135 ユーロのバック (19,350 円入り) にしかならない。

Gate は 36。今回の機体は、機内の雑誌によれば、たぶんボーイング B777-200 だ。航続距離は 11,500 km (上表参照)。日本-欧州間のようにこの程度の航続距離の飛行機になると燃料は 130 トン以上も積む。燃料はケロシン、つまり灯油で、密度を 0.8 とすると、135,880 kg は 17 万リットル。

としては「使い捨てカイロ」とでも呼ぶのだろうね。「カイロ」は漢字で書くと「懐炉」です。知っていましたか？

使い捨てカイロを巡る話も Wikipedia を読むと面白いが、脱線し過ぎなのでやめておく。ただ、へーと思うほどブランドがあるので、以下列挙：

- ・桐灰はる (桐灰化学、小林製薬の子会社)
- ・ホカ王、ホカロン (ロッテ健康産業、製造：日本パイオニクスにて 2010 年まで)
- ・どんと (大日本除虫菊)
- ・ホッカイロ (白元)
- ・オンパックス (マイコール、エステーと販売業務提携)
- ・快温くん (オカモト)
- ・ミスターホット (フマキラー) 現在は製造していない。
- ・あったカイロ、ぬくっ子 (アイリスオーヤマ)

200 リットルドラム缶換算で 850 本。家庭用の 18 リットル赤タンクで 9,400 本。これで成田から欧州へ行く。

愛称が「サウンド・オブ・ミュージック、ヨーロッパのハート、自由の夢、オーストリアのスピリット」と勇ましい。

オーストリア航空グループ全体では現在 76 機の機体を保有している。短・中距離用のエアバス 319/320/321 を 29 機、フォッカー 70/100 を 23 機、ボンバルディア Q400 を 14 機、長距離路線用としてボーイング 777-200ER を 4 機、ボーイング 767-300ER を 6 機だ。オーストリア航空はその運航を子会社であるチロリアンエアウェイズ (Tyrolean Airways) に 100 パーセント委託しており、運航スケジュールは『チロリアン航空運航』("operated by Tyrolean") と表示されている、とのこと。

機内で今回は映画を観よう。食べ、飲み、映画。まず『エリジウム (Elysium)』(2013)。マット・デイモンとジョディ・フォスターが共演と言うから期待したが、ひどかった。見なきゃよかったと久々に思った作品。2 本目が何とあの『ホームアローン』。1991 年の作品で、主演のマコーレ・カルキンは可愛いものだ。昔 1 度しか観なかった割には細部まで覚えているものだから、観てよかったとも思わず。選択ミスだったか。

ジョー・ペシも今頃は歳をとっているだろう。あの母親役はキャサリン・オハラというのか。『ホームアローン』はその後 TV も含めて第 5 作まで作られた。マコーレ・カルキンは 2, 3 年前に覚せい剤所持か何かで捕まっていた。

予定より 40 分早くウィーン国際空港に着陸。今回のホテルは以前と同じく南駅の前ホテル・プリンツ・オイゲン (Hotel Prinz Eugen) で確か空港からバスが出ているはず。バスのチケットブースへ行ってチケットを買う。「往復はない。4.20 ユーロ (602 円)。地下へ降りて」と切符を受け取る。延々と歩くがバスターミナルなど見当たらない。いったん戻ったら「電車だよ」と。ああ聞き違い。だけど今まで空港から電車で移動した経験はないので、この際に経験しておくか。OBB のプラットフォームへ降りる。

OBB というのはオーストリア連邦鉄道 (Österreichische Bundesbahnen) のことだ。空港と市中心地の中央駅とを結ぶ有名な CAT (City Airport Train; 写真) は別会社。プラットフォームも別だ。



さて、OBB を使ってどうやって南駅の前ホテルまで行くのか。南駅までの直通路線はない。ちょうど階段を降りて来た若い男性に聞いた。

彼はプラットフォームの地図を見ながら「(観覧車で有名な) プラターシュテルン (Praterstern) 駅まで OBB で行き、そこで地下鉄 U1 に乗換えるのがわかりやすい」と教えてくれた。わかりやすい、というのは、路線図を辿れば他のルートもあるわけで、レン通り (Rennweg) 駅で別の OBB 路線に乗り換えてすぐ、という行き方もあるが、地下鉄が楽だよ。街中まで行って V 字型に戻るようになるが、僕も地下鉄の方が慣れているので教えてもらった方を選ぶ。

1629 発の各停 OBB。ゆっくり座れた。日はとくに暮れて窓外は真っ暗だが、どうやら空港と街を結ぶこの路線は工場地帯の中に入っているらしい。実際は線路が出来てから工場が集まって来たのだろうが。プラターシュテルン駅まではほぼ 30 分。

プラターシュテルン駅はデカイ。だがわかりやすい。大きな駅だが迷うことなく乗換が出来る。

地下鉄 1 週間切符は 15.80 ユーロ (2,264 円)。1 週間切符なのだが、使用は月曜日から 1 週間とされている。実際今日買った切符には、「2013 年 12 月 9 日 - 2013 年 12 月 15 日」、つまり明日からの 1 週間と印刷されている。だからといって今日改札でパンチした時「ブー」となって扉がバタンと閉ってしまう、というようなことはない。月曜日以外の日から使い始めたらどうなるのか以前から疑問に思っていたのだが、後でウィーン在住の知り合いに聞くと、市内で使うには問題ない、郊外では不可だろうとのこと。

日曜夕方だから人出が多いのか、ラッシュアワーでさえこんなに込んでいないぞと思うほど地下鉄 U1 は込んでいた。

ようやくホテルにチェックイン。ホテルの部屋代 (朝食込み) は 490.00 ユーロ (=70,200 円)。一泊 70 ユーロだから、2 週間前のホテルの 1 泊 90 ユーロに比べて明らかに安い。街中心から離れているからか。

チェックインの際、カウンターの女性が、今日までクリスマスのスペシャルプレゼントで、FACEBOOK がどうのこうの言いながら紙片を差し出し、僕の背後を指さす。振り返ると、玄関を入ったところのロビーに、「顔出し看板」というのか「顔ハメ看板」というのか、よく観光地などにある、顔の部分を作りぬき、等身大で、写真撮影などに利用する看板があった。言うまでもなくサンタクロースである。渡された紙を読むと、「あなたひとりのクリスマスカードを作ります。FACEBOOK 上にアップロードしてコンペをします」と。どう、と聞かれたが丁重にお断りした。

かつて知った狭いエレベータに乗り込み 606 室へ。荷物を解いて、日本円の財布は

室内の金庫に入れ、それからもう一仕事。それは机の上からテレビをどけること。いまどき珍しい分厚いテレビで、それが壁際の机の上の半分くらいの面積を占める。パソコン作業をするのに邪魔だ。

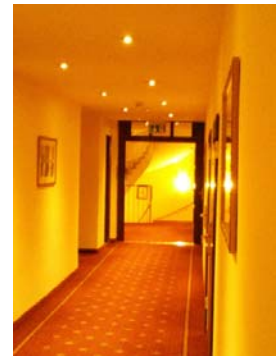
そこで写真のようにテレビを机の脇にあった荷物置き(?)に移動した。のだが、実はあまりに重くて、それにテレビの下にあった木製の台(回転出来るようにするための台)ごと持ち上げたら、なんとテレビを床の上にゴトッと滑り落としてしまった。慌てて(慌てる必要もないのだが)持ち上げ、はずれた電源ケーブルともうひとつのケーブルをつなぐ。試しにスイッチを入れてみたが ON になるものの映像は来ない。どうせ観ないから何も困らないが、一応



「映らないよ」とメモに書き置く。ついでに冷蔵庫の電源も入っていないことも。翌日夕刻部屋に戻ったら、テレビは電源が ON になるだけだったが、冷蔵庫は OK。これで充分です。

前回、ドナウ川のこちら側のホテルに泊まり、ドナウ川を渡って職場へ通勤することを考えていたが、結局できなかった。今回は考えよう。できればこのホテルから歩き始めたらどうか。Google で調べたところ、このホテル (Wiedner Gürtel 14) から、職場の目の前の駅カイザーミューレン VIC まで、次ページの表にと地図に示した徒歩経路を探索してくれた。6.8 km。次のように歩けと地図には青くルートが示されている。

ベルベレーデ宮殿の庭を突っ切って街中心部に近づくルートだ。しかし、地名が細か過ぎて多分わからない。辻々で立ち止まって地図を覗き込むのは、「いかにも旅行者です、この辺りには疎いです」と言っているようなもので、物取りにしてみれば格好の餌食。アメリカやイタリアやパリに比べてウィーンは治安がいいのだろうが、用心に越したことはない。だから、僕はできるだけ地図はホテルを出る前に頭に叩き込み、覚えられないよ



- | | |
|--|--------|
| 1. ホテルの前の Wiedner Gürtel/Wiener Gürtel Str./B221 を Mommseng. に向かって北東に進む。そのまま Wiener Gürtel Str./B221 を進む | 350 m |
| 2. 左折して Praetoriusg. に向かう | 650 m |
| 3. Praetoriusg. を直進する | 120 m |
| 4. 左折して Rennweg に入る | 53 m |
| 5. 右折して Reisnerstr. に入る | 750 m |
| 6. 右折して Beatrixg. に入る | 500 m |
| 7. Gärtnerg. を進む | 220 m |
| 8. Bechardg. を進む | 350 m |
| 9. 左折して Kolonitzpl. に入る | 55 m |
| 10. Untere Viaduktg. との交差点で右折する | 75 m |
| 11. 左折して Löweng. に入る | 48 m |
| 12. 右折して Radetzkystr. に入る | 230 m |
| 13. Franzensbrücke/B8 を進む。そのまま B8 を進む | 3.0 km |
| 14. 右折して Schüttaustr. に入る | 100 m |
| 15. 左折して Felix-Bischof-Weg/Weissauweg に入る | 78 m |
| 16. 左折、階段を通る。目的地は前方右側です | 400 m |

うな地名や道は最初から選ばないことにしている。というわけで明日からはできるだけ大きな道を通って歩こう。

こうして長い初日が終わる。日記も初日は長い。

12月8日(日)曇り

夜が明けた。南側に面する部屋の場合、このところ定番になっている、南駅の写真(4)。工事は捗っている。3番目の写真はトラム。



朝食。メニューが少し変わっていた。先の旅行記に、このホテルの朝食メニューは10年1日のごとく変わっていないのではないかと書いた覚えがあるが、ついに変わっていた。今までのきゅうりとパプリカ(赤、黄)以外にキャベツの酢漬け他4種類がトレイの上に乗っていた。滞在中ひととおり食べてみたが、どれも二度食べることはなかった。

それとコーヒーポットが、今までは壁際の台の上に並んでいて、各自テーブルに持って行ったのだが、今回は予めテーブルの上に置いてあった。置いてあるテーブルとそうでないテ

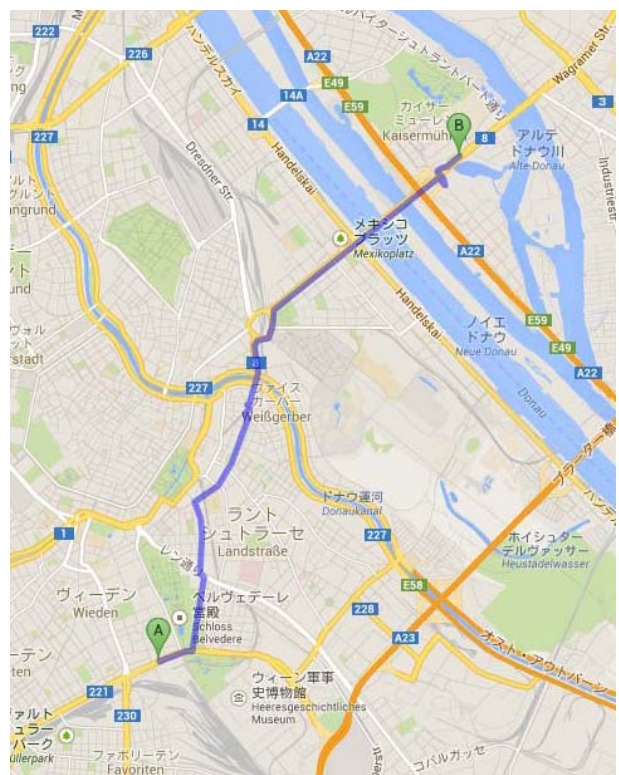
ーブルがあるところを見ると、置いてあるテーブルへ客を誘導しているのだろう。そうとは知らず勝手に座る。もっとも、食器、コーヒーカップ、ナプキンなどはどのテーブルにも完璧に用意されている。

今日のところは無謀なことはせず、街中まで歩いて地下鉄に乗ることにしよう。ホテルを出て左(東)に向かい、ベルベレーデ(Belvedere)宮殿沿いのプリンツ・オイゲン通りを北上する。トラム通りであり、宮殿の反対側には古いが特徴のないビルが連なる。多くはアパートだと思うが、1Fにレストランが数軒。インド料理屋が気になるね。

街中のシュテファンシュプラッツ駅から地下鉄に乗り、職場前のカイザーミューラーVIC駅で降りる。日曜日だからさすがに誰も出勤していない。駅を出て階段を上がると、いつも入っていくセキュリティの建物の前に、先に来ていた仲間二人と、それを迎えてくれている今日の集まりの秘書の女性その1。スペイン系か。はきはきしゃべる美人。名字は長くて覚えられないが、名前はSilva。

予定5名のうち4名が揃ったところで、ガードマンに導かれて中へ。さすがに誰もいなくて閑散としている。

意外に思ったのは、今日は日曜日だから、一昨日金曜の夜から暖房が切れているのに、建物の中が寒くないこと。大きな建物なので熱容量が大きいのだろう。9Fの一室で打合せ&原稿執筆作業を進める。感心したのは、ここでもまた秘書さん(その2)が現れロジなどこなすこと。それに、ミニバーというのか、コーヒー(NESPRESSOマシンごと)、



クッキー、(日本の) 蜜柑、水が用意されていること。西洋人と言うにはこういうものがないといっときとも生きていけないのか。太るなあと思いつつながら食べる。

食堂は開いていないので昼食はどうするのかなあ、近くのホテルかなあ、などと思いながら出勤してきたが、スキップしようと朝皆で決めた。が、ロシアからのひとりがバンズのサンドイッチを持って来ていて切り分けてくれたのだ、皆で分けて食べた。スパシーバ。

午後3時半散会。地下鉄をシュテンファンプラッツ駅で降りて、当てもなくケルトナー通りを南下、ケルトナー・リンクで、行ったことはないが日本料理「雲海」のあるグランド・ホテルを左に見、いつぞや秋四宮殿下夫妻が泊まったインペリアルホテルを右に見て、シュヴァルツェンベルクプラッツへ右折。すぐ右手のマクドナルドへ。空腹で仕方がなかったのだ。New York Classic とフライドポテト L サイズで合計 6.88 ユーロ (986 円)。

テイクアウトし、朝来たプリンツ・オイゲン通りを南下。ハンバーガーが冷めてしまう…と心配するほどに遠いなあと思いつつ足早にホテルへ。New York Classic はおいしかった。日本よりも明らかにデカイ。

今日の歩数は 11,310 歩。

12月9日(月)

さて、今日は歩こう。朝食を終えて8時前にホテルを出る。歩こうとしている道路名は一応頭に入れた。

おおまかには、プリンツ・オイゲン通りを北へ向かい、リンク(Ring)を右折して北東に向けて直進、アスペルン橋(Aspernbrücke)でドナウ運河を渡り、地下鉄 U1 線沿いに北東に向かい、プラーターシュテルンを超えて一直線にカイザーミューレン VIC 駅へ至る、というルート。

実際は、ドナウ運河を渡って、地下鉄 U1 のネシュトロイプラッツ(Nestroyplatz)までで時間切れ。仕事開始時刻まで15分となり、ネシュトロイプラッツで地下鉄に乗った。ここまで1時間かかった。それほど距離でもないのだが、キョロキョロしながらだったからか。

正確に辿ると次の通り：

1. プリンツ・オイゲン通りを北へ向かい、幹線道路(1号線?)を超えて直進。リンクにぶつかる。
2. いつもはカールスプラッツに向かうために左折するが、今回は生まれて初めて右折する。リンクのこの辺りはシューバートリンク(Schubertring)というが、音楽家のシューベルトでしょうね。
3. さらに直進すると右手に市立公園(Stadtpark)が見え、これに沿って歩く。この辺りのリンクはその名の通りパルクリンク(Parkring)で

ある。市立公園の中には Das Johaan という名のレストランがあるようだが、これは Johaan Straußか。(後で地図を見ると、この公園内にヨハン・シュトラウスとシューベルトの記念碑がある)

4. 右手の市立公園が途切れると道路はシュトゥーベンリンク(Stubenring)と名を変え、この辺りから真北へと方角も変わる。右手には古くて大きな薄い黄色の建物が見えて来る。これは「ウィーン応用芸術大学」の図書館らしい。これに続いてまたまたデカイ建物、政府庁舎(Bundesministerium für Wirtschaft, Familie und Jugend: 経済、家族および若者連邦省)がある。
5. これらを過ぎると、ドナウ運河の河岸にあたる、路面電車が通る大きな道路にぶつかる。この交差点の辺りをユリウス・ラーブプラッツ(Julius Raab Platz)、交差点より東側に伸びる通りをウラニア通り(Uraniastraße)、西側に伸びる通りをフランツ・ヨーゼフス・カイ(Franz-Josefs-Kai)という。Julius Raab は第19代オーストリア首相。
6. この交差点をどちらにも曲がらず、まだ直進、つまりアスペルン橋で運河を渡る。向こう側の河岸がウンターレ・ドナウ通り(Untere Donaustraße)で、ここも過ぎてさらに直進。右手に Novotel Wien City ホテルを見ながらプラーター通り(Praterstraße)に合流。
7. プラーター通りを北東に一直線で、延々と行けばいつかはドナウ河を超え、目的地に着くはずだ…った。



今日以降離るまでに(ウィーン=維納を離れる→離維)頻繁に書くことになると思うが、街はすっかりクリスマスである。右上の写真は、上記の2の手前の広場(例のロシア兵の英雄記念碑がある、シュヴァルツェンベルクプラッツ)で見かけた風景。何かと思ったらクリスマスツリーに使う樅の木だ。この場所で店でも開くのだろうか。

仕事は、9時から大会議室で全体会合、その後所定の部屋に入り、1日原稿書きとその情報収集。午前の途中コーヒーコーナーでラージ・エスプレッソ(1.85ユーロ=265円)。昼食は食堂で。

夕方、レセプションの後スパゲッティが食べたくなっていつか行ったシュヴェーデンプラッツのイタリアンレストラン、Ristorante Rossini, Schönlaterngasse 11へ同行の上司と。

ホテル帰着後、冷蔵庫内のビール(3.50ユーロ=502円)、水(2.80ユーロ=401円)、チョコレート Milka(2.20ユーロ=315円)を。Milkaのチョコレ



ートは相当前に製造したものらしく、表面に砂糖が析出していた。味に変わりはありません。

14,265 歩。

12月10日(火)

雨が降りそうだし、歩きはやめた。

ホテルを出て右(西)方向にある小路アルゲンティーニア通り(Argentinierstrasse)を、聖エリザベート教会に向かって歩くと、一つ目の角の右側に少ししゃれたカフェ、左手手前に前々回に出発前の朝チョコレートを買に行った SPAR、その反対側に幼稚園があり、さらにまっすぐ行った左側に文房具屋があり、その店内の一角で郵便を受け付けてくれる。その郵便局業務(Post-Partner)のカウンターで、日本の友人夫婦二組に向けて、昨日買った絵葉書で、毎年恒例の「結婚記念日おめでとう」メッセージを送る(1.70×2枚=3.40ユーロ)。

店に入ったときに、背が高くて若い女性店員としゃべっていた年老いた婦人が、今度は僕に向かって何かしゃべり始めた。ドイツ語でさっぱりわからない。

この通りは今まで幾度となく通ったが、今回ベルベレーデ宮殿の正門からカロリーネン通りを覗いてみて初めて気が付いた。この教会は、カロリーネン通りとアルゲンティーニア通りとの交差点に位置し、上の地図を見ればわかるように、プリンツ・オイゲン通りのベルベレーデ宮殿の正門から見て西方に、フュエオリテン通りから見て東方に、ホテルの前のヴィードナー・ギェルテル通り(Wiedner Gürtel)から見て北方に、そして、北はカールスプラッツに近い公園から見て南方に、それぞれこの教会を望むように配されているのだ。なるほど。

この文房具屋で何かクリスマスプレゼントになるものはないかと少し物色するも、目ぼしいものはなし。

店を出て、カロリーネン通りを西へ向かい、フュエオリテン通りへ出、北上してウィーン工科大学を左手に見ながらカールスプラッツ。ここで地下鉄U1に乗り出勤。

今日も日がな1日原稿書き。

昼食は食堂。コーヒーコーナーで午前にはラージ・エスプレッソ(1.85ユーロ=265円)、午後にはカフェ・ラテ(2.75ユーロ=394円)。建物内にいくつかあるこのコーヒー・軽食コーナーは Delegate Lounge と呼ばれている。

要するに客用ということだ。

退勤時は昨日と同じくシュヴェーデンプラッツ駅で降りる。今日はここからホテルに向けて歩いてみよう。地表に上がったところで、歩いていた夫人にシュテンファンズプラッツの方向を聞く。「ここを真っすぐよ」と指さされた道、ローゼントウルム通り(Rosenturmstrasse)へ。

どの店もどの店もクリスマス仕様で精一杯のアピールをしている。通り沿いには右の写真のように、巨大な火の玉みたいなオーナメントがぶら下がっている。写真には映っていないが歩道は人々で溢れ、僕は人波を避けながらも、キョロキョロと次から次へと現れる店の中に目を留めながら歩く。



このローゼントウルム通りが、シュテファン寺院回りからケルトナー通りというお上りさん通りに続くのだが、教会が近づいてくると臭いでわかる。馬の臭いだ。

ウィーンの街中は、観光客用の馬車が歩き回り、シュテファン寺院の脇は大きなバス停ならぬ、馬車溜まりになっている。観光客はここで馬車を拾う。馬が集まるので、辺りは結構な臭いだ。

シュテンファン教会の前はいつものように人で溢れている。

ケルトナー通りからリ





ンクへ出、プリンツ・オイゲン通りへ曲がる。手前の薬局。薬局さえもクリスマス飾る(前ページと左の写真)。今日は 10,152 歩。

12月11日(水)

今朝も朝8時前にホテルを出る。今日は本格的に(?)新しいルート開拓だ:

1. ホテルを出て、ヴィードナー・ギュルテル通りを東に進む。
2. プリンツ・オイゲン通りを超えそのまま直進する。道はラントシュトラセル・ギュルテル(Landstraßer Gürtel)と名を変える。「おっ、ここにホテルがあったのか」と、Hotel Daniel Viennaを左手に見ながらなおも直進する。
3. ファザン通り(Fasangasse)という電車通りへ左折し北上する。
4. レン通り(Rennweg)を超えて直進する。道はウングアル通り(Ungargasse)と名を変える。左手に何やら新しい立派な建物と、隣接する洒落たホテル。立派な建物の方は帝国乗馬学校で、ホテルはThe Imperial Riding School Vienna Hotelというらしい。ホテルの一室がモデルハウスのように道路に面して作られ、外から見えるようになっている。
5. Invalid 通り(Invalidenstraße)を右折、すぐに大きくて賑やかなようなラント通り(Landstraße)を左折、直進すればすぐに市立公園(Stadtpark)の一角にぶつかる。ラント通りのこの賑やかな一角がウィーン中央駅(Vienna Mitte)だ。多分地上からアクセスしたのは始めてだ。
6. ぶつかった市立公園が面する広い道路がVordere Zollamtsstraßeとか言う幹線道路で、これを右、つまり北東に向かう。何か大きな音が地下から聞えると思っただけで道路から覗き込むと、地下鉄が走っている。地下鉄U3だ。
7. とても広い道路だが歩行者が少ないこの道をまっすぐドナウ運河まで向かい、ウラニア通りへ左折するのだが、小さな橋の欄干に「Radetzky」と刻まれている。ここは東から来たラデツキー通り(Radetzkystraße)の終点のようだ。ラデツキーと言うのはあの「ラデツキー行進曲」のラデツキーでしょうね。音楽家の名前かと思っただけで軍人だった²。ラデツキー

行進曲を作曲したのはヨハン・シュトラウス。

8. このあとは昨日と同じだ。つまりユリウス・ラープ・プラッツから運河を渡り、ウンターレ・ドナウ通りを過ぎ、右手にNovotel Wien Cityホテルを見ながらプラーター通りに合流。そして今日もここで時間切れ。雨が強くなってきたこともあって、ネシュトロイプラッツ駅で地下鉄に乗車。

昼食は職場の食堂。コーヒーコーナーでラージ・エスプレッソ(1.85ユーロ=265円)。

退勤。気温がぐんぐん下がり、少しの風で耳が痛い。いかにもクリスマスの季節だ。

シュヴェーデンプラッツとシュテファンシュプラッツの間、つまりあの賑やかなローテントウム通り沿いにある店でピザで夕食。巨大なサラミピザの4分の1とスープ(3.00+2.80ユーロ=831円、安い→特においしいとも思わない)。スープで体は暖まったかな。

帰りにカールスプラッツのスターバックスに寄り、同僚のK君から頼まれた土産物探し。マグ2種類とタンブラー(9.90+12.00+12.90=34.80ユーロ=4,988円)。それをスタバの布バッグ(7.90ユーロ=1,132円)に入れてあげよう。それからコーヒー(12パック入りクリスマスブレンド:5.39ユーロ=772円)を自家用と職場用に、あとはペットボトル入りの水(2.40ユーロ=344円)。



帰国後自家用に買ったコーヒーの箱を開けてみてがっかり。コーヒーカップ一杯用のバッグかと思っただけで買ったのだが、エスプレッソ・マシン専用のカプセルだった。我が家にはマシンはないから使えない。誰か探そう。

さて、クリスマスのこの時期、街中のあちこちで“Christkindle Märkt”(クリスマスマーケット)が開かれる。場所は、たとえば<http://www.christkindlmaerkte.at/wien.html>とか<http://www.austria.info/uk/winter-holidays-austria/christmas-markets-in-vienna-1428274.html>に紹介されている。ウィーンだけでなくヨーロッパの街の風物詩らしい。

いろいろな店が並んで綺麗だよ、と口々に言われたが、イメージが湧かない。カールスプラッツにもあるというので、帰りに行ってみた。次のページの写真がそれ。

² (Wikipediaより) ヨハン・ヨーゼフ・ヴェンツェル・フォン・ラデツキー伯爵。1766年11月2日ボヘミア西部・トレブニツ(現チェコ・トシェブニツェ)生まれ、1858年1月5日没。オーストリアの貴族で軍人。ラデツキー家はハンガリー貴族の流れを引く。ウィーンで学ぶ。1785年にオーストリア軍に従軍。1788年以来、対トルコ戦争やナポレオン戦争など多くの戦争に参加し、

1836年元帥、1849年から1857年までロンバルド＝ヴェネト王国の総督。ヨハン・シュトラウス1世が1848年に作曲した『ラデツキー行進曲』は、同年に北イタリアの独立運動を鎮圧したラデツキー将軍を称えて作曲された。なお、ミラノから持ち帰ったカツレッツが、ヴィーナー・シュニツェルになったともいわれる。



小さな小屋みたいなのが並んでいる。祭りの屋台みたいなものですね。小屋は皆同じで規格化されている。その小屋では、この時期らしい食べ物とか飾り

物とか、中にはチョコレートとかチーズとか、いろいろな物を売っているわけだ。だから、日本では祭りの屋台で熊手や羽子板やタコ焼きを売っているというイメージ。年末の上野のアメヤ横町や京都の錦市場のようなものではない。「綺麗で面白いが要る物は売っていない」(旅行会社)のがクリスマスマーケットだが、皆何だか暖かいものを飲みながら楽しく過ごす場所だ。

カールスプラッツのマーケットは路地の両側に店が並び、大きくはなさそう。「これだけ?」と思っている間に通り過ぎ、帰途に。ベルベレーデ教会の正門を入ったところに飾りがしてあるが、これがただの飾りでなくて、ここでもクリスマスマーケットが、それもウィーン市内では結構大規模なものだと後にわかる。

のど飴を持ってきてよかった。

16,296 歩。

12月12日(木)

朝4時半頃、起きて机に向かってしていると、微かにいい匂いが漂って来る。そうか、焼けたパンの匂いだ。6時半から朝食が始まるからね。今までではもっと高い階に宿泊していたのでちっとも気付かなかったけれど、ここは食堂から近いから香ってくるのだ。

今日もまたファザン通りーウンガル通りコースだが、ドナウ運河の手前でアチコチ角を曲がり、運河沿いを西に向かって歩いてシュヴェーデンプラッツから地下鉄に乗る。

途中駅で子供たちが一杯、20人ほど乗って来た。4,5歳児か。この年頃はうるさくない年頃なのか助かった。皆ライフベストにヘルメットをかぶり、4,5人の女性の付き添いがいた。

昼御飯は職場の食堂(7.04ユーロ=1,009円)。コーヒーコーナーでいつものラージ・エスプレッソ(1.85ユーロ=265円)。

夕方は、一緒に仕事をしているブレンダとタミーとクリスマスマーケットに出掛ける。3人で地下鉄に乗り、プラーターで降りる。ここにブレンダのホテルがあり、ブレンダとタミーは荷物を置きに行く。このホテル(Design-und Kunsthote Hotel, www.hrs.de/hotel/Wien/Wilhelmshof)は、部屋ごとに設計者が違うというユニークなホテルらしい。確かに内部は洒落ている。ブレンダの部屋でワインを開けグラスに一杯。最初グラスが3つ見つからず、彼女はラッパ飲み。

ホテルを出、広い道路がサークル状に囲んでい

る駅に向かう。ここは OBB と地下鉄が集まる大きな駅だ。そう今回空港から到着した駅。

地下鉄 U2 に乗り、フォルクステアター(Volkstheater: 国民の劇場)で降りる。前回ウィーンに来た時に「Hidori」という日本料理屋に行っ

て帰りに通ったところだ。地上に上がったところが大きな広場で、ここは文字通り「美術館広場」(Museums-quartier)。そして道を渡ったところが、赤々と灯がともって賑やかなクリスマスマーケットで、ここはマリア・テレジェン・プラッツ(Maria-Theresien Platz)という。このプラッツに屋台がずらりと並んで賑わっている。マリア・テレジェン・プラッツを両側からそっくりの大きな建物が挟む。向かって左側がウィーン自然史博物館、向かって右側が美術史美術館だ。これらのミュージアムがあるからこの辺りをミュージアム・クォーターというのだろう。

このマーケットはデカイ。カールスプラッツとは比べ物にならない。

右の写真の向かって左側が英国人の BH、ブレンダ・ハワード(Brenda Howard)、右側がカナダ人の TY、タマラ・ヤンコビッチ(Tamara Yankovich)。タミー(Tammy)だ。



ブレンダに「プロセス」を教えてもらう。まず入口に近いところに飲み物屋さんがある。ここでカップと飲み物を買う。カップは後で返せばその分の料金は戻って来る。僕は2人と同じく、兼ねて聞いていたホットワインを。

コーヒーカップのようなカップに入れてくれて、確かカップが2.5ユーロ、ホットワインが4.5ユーロだった。ホットワインと言うのはポンチのことか。暖かくて甘い。後で聞くと角砂糖4,5個分の砂糖が入っているのだとか。これをちびちびやりながら屋台を冷やかして歩くわけだ。

もちろん食べ物屋もある。何と云う名前か忘れたが、ポテトの揚げ物みたいなものを食べた。ポテトチップもいわばポテトの揚げ物だが、この店ではポテトを平たく大きな円形にした、つまり丸い





ポテトチップの巨大なやつを揚げたもの。これもポテトチップも揚げたてでまだ濡れている。思いつきカロリー補充。

チョコレートばかり売っている店がある。チョコレート自体は普通にある、しかし結構おいしいチョコレートだ

ろうが、包装がいかにもクリスマスらしい(ハ)。これをいくつか買って行こうと選んでいるときに大失敗。前かがみになっているとき知らずにホットワインがカップからこぼれていたのだ。こぼれたワインは手前の商品の上。



高校生のアルバイトらしい店番の女の子は早速その場でオーナーに電話。そら「弁償しろ」と云うわね、当然。15個か20個、濡れて売り物にならなくなった左の写真のチョコ

コレートを買上げることになった。これは一つ1.95ユーロ(280円)。同情したブレンダとタミイ二人がそれぞれ数個づつ、10ユーロ分買ってくれた。なんと優しいこと。「気にしない、気にしない。」この程度の失敗で楽しい時間を壊したくないのだ。

チョコレートは合計確か51.85ユーロ(7,432円)。帰ってから一番上の写真のチョコレートを配ったら皆喜んでくれました。二番目の写真のチョコレートは、知っている人も多いと思うが、スパイスチョコレート。スパイス入りのチョコレートは近頃日本でも結構売られているらしい。チリ味とかカレー味とか。バナナ味とかいうのもあった。僕はチョコレートは好きだがこれだけは買わないでおこうと思っていた物の上にワインをこぼしてしまったわけです。



今回だけは、食べて消えてなくなるものではなくて、家にも何か買ってかえろうかとさんざん悩んだ挙句、左の写真のローソク。ローソクなんて実にいろいろ売っているのだが、何せ地震国日本、ローソクだけで立てておくタイプのは怖い。実は我が家に以前少々買い

集めた飾りローソクがあるが、3.11以来どれも横倒しにしている、つまりローソクの用を足していない。というわけで耐震性 earthquake-proof のローソクを買った。

なるほどこれがクリスマスマーケットかと、失敗も含めて堪能し、帰路へ。さすがに寒い。地下鉄の駅まで歩く間に、ポケットにひそませていた「オンパックス ミニ」と「動くたびにフワッと香りに包まれる香るカイロ さわやかアップル&フローラル」を顔に当てる。それをタミイが見つけた二人に挙げた。これはいいと喜んでた。使い捨てカイロは西洋にはないのだろうか。ホテルに置いて来た残りを翌日全部彼女たちにあげた。

地下鉄に乗り、3人とも二つ隣のカールスプラッツで降り、2人は上り線に、僕は下り線にと別れる。

今日のマーケットに行ったときの地下鉄駅はフォルクステアターだが、その隣駅がラートハウス(Rathaus)。ラットハウス、ネズミの家かと思ったが市役所のことらしい。そして多くの人がここで開かれるクリスマスマーケットが一番美しいと言っていた。今回はパスだ。

今日の歩行は15,096歩。

12月13日(金)曇り

仕事最終日。

今日もホテルを出るのが8時前になる。そんなに遅いのでは今日もまた途中までだなどと思いつつホテルを東に向けて出掛ける。延々北上するパターン。

ベルベレーデの前に大きな観光バスが停まっていた。近くのホテルに宿泊している観光客用なのだろう。バスの窓には日本語で「ウィーン、ブタペスト、プラハ、8日間の旅」。パックスツアーとしてはやはりこの3都市でしょうね。

今日はウンガリ通りから昨日より少し手間の狭い道へと右折する。地図で見るとベハル通りか。どんよりとした今にも雨が落ちて来そうな空模様のせい、両側の頑丈そうだが古いアパートの建物に挟まれた路地は、日本で言う路地よりは歩道も車道もはるかに広いが、冷たくて、窓々から異邦人をみているようにも想像できて、長居はしたくないという感じ。

小さな公園に突き当たる。左手をみると鉄道の高架らしい。このまま直進の方向に向かえばドナウ運河の河岸に出るだろうと予想は出来たが、一応近づいて来たお爺さんに尋ねた。ゆっくりとした分かりやすい英語で助かった。あそこを曲がって、と指さしてくれ、そのあと真っすぐだと。

まず目の前の電車を渡る。ここはラデツキー通りだ。ラデツキー通りを横切って、さらに細い道を行けばまもなく運河の通りに入る。その辺りの通りの名はヴァイスガーバーレンデ(Weiβgerberlande)というらしい。Ländeだから、通りでなくて土地という意味か。

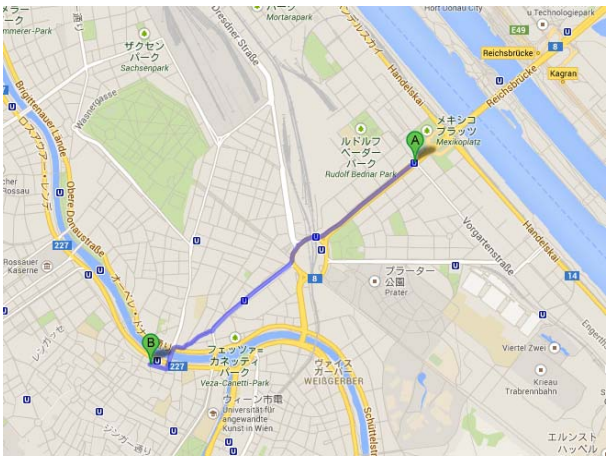
川岸だから、ますます寂しい通りで車だけがビュンビュン通る。歩行者なんて滅多にすれ違わない。まあ、真っすぐ行けばそのうち地下鉄のシュ



ヴェーデンプラッツ駅だろうと思いがながらキョロキョロ歩いていると、左奥に何だか妙だが楽しそうな建物発見。思い出した。フンデルトヴァッサー (Hundertwasser) とかいう前衛的な建築家の作品で、今目の前にあるのは、「クンストハウス・ウィーン フンデルトヴァッサー美術館」(Untere Weißgerberstraße 13, 1030 Wien, www.kunsthausewien.com) という。

旅行書を覗いてみると、フンデルトヴァッサーの作品はウィーン市内にいくつかあるようだ。すぐ近くにフンデルトヴァッサーハウスというカラフルな市営住宅があるらしい。ウィーンのごみ処理場も彼の設計であることは 2009 年の旅行記に書いたとおりだ³。

門の外から写真を 1 枚撮り (↑)、そのまま直



³ 「シュピッテラウ (Spittelau) 駅へ到着し、ここでお目当ての地下鉄 6 号線に乗るのだ。

U4 を降り U6 乗り場へ上がるとそこは勿論地上駅で、ガラス張りの向こうに誰もが目を引くような、ハイカラな工場のような建物が目に入る。そうか、これがフンデルトヴァッサーがデザインしたゴミ処理場か。おもちゃのような柄だが、これが、直線を嫌い、画一的な住宅群などを毛嫌いだ彼のデザインなのだ。フンデルトヴァッサーハウスは街中にあり、絵葉書にもなっている。1997 年には大阪のゴミ処理場の設計も手がけたらしい。」(ウィーン歩き回り記 ; <http://www.5f.biglobe.ne.jp/~pinawa92/bunsho/2009Vienna.pdf>)

進、運河沿いの道をシュヴェーデンプラッツの地下鉄駅へ向かう。

昼御飯は職場の食堂 (6.85 ユーロ=982 円)。今日もまたコーヒーコーナーで午前にはラージ・エスプレッソ (1.85 ユーロ=265 円)。

仕事は午前中で終わった。わがチームだけは日曜日から始まって今日まで 5 日半の作業だった。さすがに今日の最終日は皆午後からは仕事から解放されるつもりで来ていたようだ。

リーダーでイギリス人のブレンダは、ウィーン滞在中の前半にご主人と一緒にいたようだが、今日はマンチェスターに向かって午後の便に乗ると帰って行った。ウィーンから距離は近いが乗り継ぎが必要らしい。

シリア人のモハマドは家族でウィーンへ来ていたらしく、今日も家族のところへ戻って行った。息子自慢のようだ。シリアは内戦がひどいとニュースで盛んに報じられているが大丈夫なのか。聞くと「何とか生き延びたよ」と笑いながら言っていた。

ロシア人のバラノフは、ここに勤務している元同僚のセルゲイと午後も引き続き仕事をするようだった。

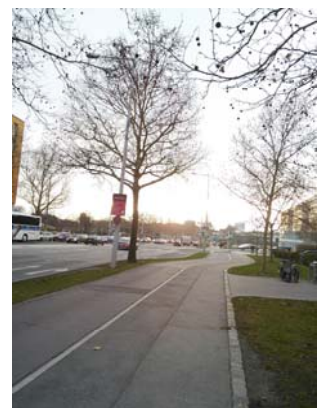
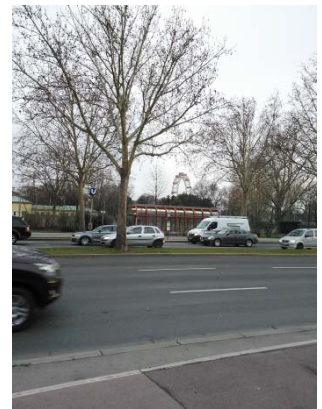
そしてよくしゃべるタミーは、ここの職員だから午後は引き続き仕事をするが、もうすぐ旦那がカナダから来るのだとこやかだ。皆、「よいお年を。ALL THE BEST!」と言って別れた。

さて、最終日。歩けるのも最終日だ。職場からホテルまでまだ歩いていないところを征服したい。しかし、職場を出ていきなりドナウ河の橋を渡るのは躊躇、ま

ず地下鉄 U1 (地下鉄だがこの辺りは地上) に乗り、ドナウ河の向こう岸のフォルガルテシユトラッセ駅へ。そう前回 11 月に滞在したホテルの最寄り駅だ。ここではすでに「地下」鉄になっているので、駅で降りて地上へ上がる。そこから左の地図のようにまっすぐ街中に向かうことにしよう。

右の 2 枚の写真のように車道も歩道も広いラサー通り (Lassallestraße) を南西に向かう。ご覧の通り商業地区ではない。郊外通りですね。

ひたすら南西に向かう。右の 2 枚目の写





真に遠く写っている尖塔はシュテンファン寺院だ。1枚目の写真はプラタープラッツに近づいて来た頃で、樹と樹の間にプラター



ターの観覧車が見える。

地図で見るとわかるが、プラタープラッツは車道が円弧を描いて駅を囲っている。歩行者はこの円弧を辿る必要はなく、円の中に入って駅の構内を抜ける。

円を抜けると、そこから通りはプラター通りと名を変え、雰囲気は少し変わる。店がぼつぼつと出始めてきた。人通りも増えてきたが、食べ物屋さんが少ないせいか、それほどではない。スタスタ自分の好きなように歩ける。



今の時期だからどこもクリスマスだけだ。一番上の写真はプラター通りに入る直前にあった縦の木屋さん

だが、通りに面した教会の前でも縦の木屋さん(二番目の写真)。

もちろん店々では商品にクリスマス飾りを仕付けている。マネキンのお姉さんまでもが…。サンタクロースは子供のためばかりではない。

プラター通りが終わりに近づいてくると雰囲気は俄然街らしくなり、ドナウ運河を渡ればそこはシュヴェーデンプラッツだ。つまり、ファルгалテンシュトラッセ駅で地下鉄を降りてからここまでは、およそドナウ川とドナウ運河の間を歩いたわけだ。

さて、土産を探すならここからカールスプラッツまで、今は午後4時頃。すぐに暗くなるのであまりゆっくりはしてられない。シュヴェーデンプラッツ駅からシュテンファン寺院に向かって商店街の中を歩く。いやいやこの辺りもいろいろな店がある。今回ピザを2回食べたが、それだけでは勿体ないところ。歩道は人通りで溢れ、スタスタとは歩けない。そして、暗くなってきた頃、シュテンファンズプラッツに出る。そしてたまげ

た。人、人、人だ。

年配の人、若者、家族連れ、皆楽しそうにシュテンファン寺院の尖塔を見上げたり、グラーベン通りのウィンドウショッピングに興じたり。クリスマス1週間前、そうか、ウィーンはクリスマス休暇を過ごす人たちが集まる街なのか。きっと音楽や演劇の催し物も華やかなのだろう。まさにmerryだ。

老舗のお菓子屋さん、デメル(DEMEL)へ向かう。グラーベン通りに続く高級店街コールマルクト通り(Kohlmarkt)の14番地「デメルを訪れずしてウィーンを語るなかれ」のあのデメルだ。1786年の創業以来変わらぬ場所。有名だからさすがに観光客が群がる。

ここへ来たのは家族に頼まれた土産を買うため、それは「スマレの砂糖漬け」(Kandierte veilchen)。見た目紫色に着色された氷砂糖だが、ひとつひとつが小さくて少しだけあればいかにも上品に見える。シシーことエリザベートが好んだらしいのだが、日本でもレシピが見られます(たとえば「皇妃が愛したスイーツスマレの砂糖漬けの作り方」:<http://matome.naver.jp/odai/2136090146726924501>)。それから、帰宅して気づいたのだが、以前買ったものとパッケージが違う。明らかにメーカーが違う。2大老舗か。

せっかくだから職場の土産もここで買おう。DEMEL だからどれも珍しいだろうが、チョコレート以外のものをもと思って選んだのが、Windringerl weise という名のお菓子。どんな味か知らないが白地に金色の粒々がなかなかクリスマスらしいと思ったから。それと、混雑する店内で偶然僕の前に居た紳士が買っていたから。



辞書によれば「Windringerl は知っています」。これではわからないのでウェブで写真を探す。何故かDEMEL の関係のサイトでは写真がみつからなかったが(マイナーなのか?)、上の写真のような類似のお菓子です。写真ではピンクとかオレンジとかの地にカラフルな粒々が見えるが、買ったのは真っ白の地に金色の粒々。とても軽い。たぶん日本へ着く頃には砕けていえるでしょう。メリークリスマス…。

ところで、僕の前でこのお菓子を買っていた紳士は、どうやら仕事帰りに寄った、というイメージだ。街中に住んで、普段からこの超高級店でスイーツを買って帰る人というイメージ。

Kandierte veilchen が 18.00 ユーロ (2,580 円)、Windringerl weise が 7.20 ユーロ (1,030 円)。

DEMEL の店内は狭くはないが、実にいろいろなお菓子が置いてあり、それを眺めるだけの観光客も多い。厚着していた暑がりの僕には長居は不可能だ。汗をたらしながらお菓子を買った。

因みに、仕立て屋の娘である家内は、ドメルと聞いてずっと紳士服生地メーカーのことだと思っていたらしい。フランスのメーカーなのに、何故ウィーンでそれほど有名なのか、生地屋なのになぜチョコレートで有名なのかと不思議に思っていたらしい。確かに生地のドメルは有名だが、それはドーメル (Dormeuil) でした。

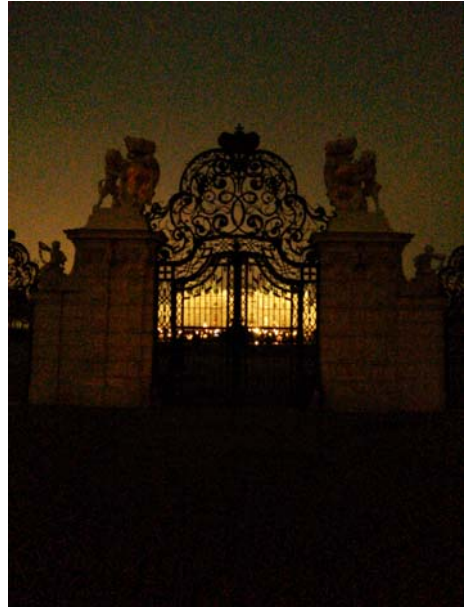


フ (Nußdorf) と南駅とを結ぶ。ウィーンの街を南北に縦断する路線。

ふと思いついたのがベルベレーデ宮殿のクリ



DEMEL のとても目立つ紙袋を下げながら店を出る。これで土産はゲットだ。外はもうすっかり暗いが、このままホテルに戻ってしまうには何か物足りない気がして、今しばらくクリスマス気分の街の賑わいの中を目的もなく歩く。そうしてホテルへ向かうも、今度は疲れて来てとぼとぼ歩きになってきた。さすがにトラムD番に乗った。トラムD番は北の方のハイリゲンシュタットよりまだ北のヌスドル



スマスママーケット。どうも気になる。それでトラムを一駅で降り行ってみた。よかったですよ。

ベルベレーデ宮殿は南北に長い敷地で、北の端に宮殿、南の端にクリムトの「接吻」で有名なオーストリアギャラリーがある。その間は一望できる広い庭園で、クリスマスマーケットは、ライトアップされた宮殿と庭園にある池との間で行われている。

ここでも、昨日のマーケットで習ったように、入口に近い露店でポンチを買い求め、次々と店を覗いて歩く。今日はこぼさなかった。

予想はしていたが売っているモノはほぼ同じだ。だから今日は見て歩くのが早い。買ったのは、木を球状に切りぬいて香料を含ませもので、匂い袋ならず匂い球とでもいうのか。たくさんの香りの種類があるが、ほとんどは日本人にはきついのではないか。これならいけるかと思うのを二つ買った。ひとつは車の中に、ひとつは職場の部屋に置いてある。

左の3枚目の写真はマーケット会場から池を映した写真。池の水面上に星が浮き、それが水面に反射して双子の星のように見える。見事な演出。この池の端を歩いて園内を南に下り、池の南端から宮殿を映したのが一番下の写真。結構綺麗だから大きくしておきます。その次の上の写真は、南の門を出て、門の格子の間から撮った写真。今日でウィーンはサヨナラです。

さて、南門を出ればホテルはすぐそこで、9時頃には到着。長い1日だった。明朝は空港に向かう。来る時は電車で大回りして来た。不便でもないが、もしバス1本で行けるならそれに越したことはない。確か以前は空港と、目の前の南駅とを結ぶ電車がなかった。

なくなったようだが念のためにホテルのカウンターで聞く。「南駅から空港へ直接行くバスはありますか」。女性係員はニコリともせず「NO」の

一言。隣に居た背の高い男性が僅かに口元を緩ませて「電車だ」と。「お・も・て・な・し」など微塵もないのだ。まあ、この素っ気なさというか、淡々としている様子がある意味心地よく思っこのホテルを今まで使ってきたのだが、さすがにこの対応、今後も使うかどうか迷わせるものだった。

今日はさすがによく歩いた。20,767 歩。

12月14日(土)

チェックアウト。部屋代+朝食が 70 ユーロ×7泊で 490.00、部屋のミニバーのビールが 3.50 ユーロ×2=7.00、Milka のチョコレート 22.20、水 2.80、合計 502.00 ユーロ (71,960 円)。昨夜とは違う女性の係員だったが、今日はにこやかだった。まあ、支払いだからね。

空港までバスはないので、結局来る時の逆の経路を辿ることにした。つまり最寄駅からプラータープラッツまで地下鉄 U1、そこで OBB に乗り換えて空港へ。一度来た道だからスナリだ、というわけには行かなかった。プラータープラッツ駅で実は切符売り場がわからなくて無賃乗車をしてしまった。自動券売機が 2 台あったのだが、2 台ともにどこかの高齢者の団体が群がっていた。一番前の 3, 4 人が券売機のディスプレイを指差しながら相談している、というのか言いたいことをお互い言っていると言うのか、外国人なのだろう。この列だか団子状の塊だか、最後尾に並んだ日には今日は飛行機に乗れない。そこで、切符を買わずにプラットホームへ。

迷わず上がった 1 番線で、念のため若者に空港行きの番線を聞くと、彼は自信なげに「5 番線だよ」と言ったのだ。そうかなあと思いつつ念のため一旦階下へ降りて 5 番線を探す。…そんなものはないのだ。ここの駅のプラットホームは 1~4 番だ。

こういったことで構内を若干行ったり来たりしたが、たぶん電車を 1 本逃しただけで、充分に空港には間に合った。

さて、今度は空港でチェックイン。国際線はウィーン空港の新しい方の建屋で、3 番へ。早速に荷物をベルトの上に載せる。重量は 16.5 kg。成田でチェックインしたときは 13.7 kg だったから確かに重くなっている。

カチャカチャとキーボードを叩くグランドアテンダントの顔が曇って不安に思った瞬間、「すいません、オーバーブッキングです。」席を替えると言う。どうしようもないのかと聞くと、「ではミュンヘン経由で」と。動くのが面倒でここで OK と言ってしまった。何と素直な日本人気質。明日の便を予約してくれと言えばホテル代を払ってくれもう 1 泊できたかも知れない。それに、たまたま同じ飛行機で渡日することになったフランス人は、あとで聞いたらねじ込んだのだと。

運賃の一部払い戻しがあるとのことで、荷物検

査を終えて、出国審査を経た後、搭乗ゲート直前のカウンターに寄って手続きを係員に聞いてみた。結果的にここで聞いてみて助かった。

ヨーロッパでは、払戻金はオーストリア航空から(?) 直接支払い者の口座に入るが、日本ではこの方法はとられていない。そこで、帰国後オーストリア航空日本支社に連絡をし、事情を話して対処するようにと支社の名刺を渡してくれた。日本ではシステムが違うということを彼女は知っていた。彼女は僕に「日本のどこから来たのか」などと聞いてくるので怪訝に思っていたが、自分は広島、神戸、大阪に居たことがある、とっても美しい国だと。滞日経験があるから日本での支払い方法を知っていて、偶然その場で教えてもらったのだ。先のチェックインカウンターの彼女はそれを知らなかったから僕に何も伝えなかったのだろう。このカウンターに寄ったのも、3 名の係員のうち彼女に当たったのも幸運だった。

それにしてもこのカウンターに寄る乗客の用事の長いこと。そりゃまあ、何も問題なければチェックインカウンターで入ってあとは搭乗ゲートの前で出発を待つだけで、ここに至って何か問題がある乗客のための相談デスクだろうから、時間がかかるのは仕方がない。

それと、最初 3 人いた係員のうちの最も年配の女性が、目の前に客が並んでいるにも関わらず、腕時計を見て平然と窓口を塞いで奥へ引っ込んでしまったのには驚いた。先進国でこういうことがあるのか。まるでインドではないか(と、インドへ行ったことはないが…)

ともあれ搭乗ゲートの前に空席を見つけて座る。混んでいる。団体客が皆それぞれに土産物と土産話を抱えて談笑する搭乗が始まり、チケットを機械に翳すと「ピーッ」という音とともに小さな紙切れが出てきた。座席が変更になりました、と書いてある。

側に立っていた係の女性がその紙片を覗きこみ、「席が替わったことを知っているか」と言うので「知っている」と答えると、こちらへ来いとどこかへ案内する。どこかと思えばさっき並んだカウンターだ。さっきのカウンターのさっきしゃべった係員に何やら訴えると、さっきのカウンターのさっきの彼女は「日本ではだめなのよ」みたいなことをドイツ弁で答える。僕を連れていったアテンダントも日本のシステムを知っていなかったのだ。「代わりに広い席を用意しましたよ」と乗り込んで行く僕に囁いてくれた。

確かに広い席だ。目の間にはスチュワーデスさんが離着陸のときにこちら向きに座る席があるだけで、脚を伸ばせる。おまけに 3 列席の真ん中、つまり僕の右側の席は空いている。しかし、広くて楽だと思っていたのは食事が済んでまもなくの頃までで、何のことはない、目の前の空間は、機

内で時間を持て余した初対面の人たち同士がたむろして「どちらから？」から始まってお互いの体験談を語り、哄笑し、土産自慢をする井戸端会議場所と化す。おまけに食事の直後はトイレに人が並ぶ。本は読んでいられない。

おまけに右横が空いていて喜んでいたら、スチュワーズさんが近づいて来て、「TVを観たいのだが壊れている席の方がおられるのでここへ来てもらっていいか」と聞く。受け入れざるを得ないではないか。まもなく女性がにこやかな笑顔を僕に見せながら座りこんできた。にこやかな笑顔に対し、その恰幅の良さに一瞬たじろいで笑顔を返せなかった自分が情けない。一気に窮屈になる。おまけにうるさい。映画を2本見る。

東野圭吾『真夏の方程式』（福山雅治、吉高由里子、北村一輝、杏、山崎光、塩見三省、白竜、風吹ジュン、前田吟）白竜演ずる仙波悲し。

『THE HEAT』（2013年：サンドラ・ブロック、メリッサ・マッカーシー）。本当に馬鹿らしい、サンドラ・ブロックらしいコメディ映画だったが、批評家から高い評価を受ける一方、興行的にも成功し、2013年公開のコメディ映画の中で最もヒットした映画だったらしい。

サンドラ・ブロックはメグ・ライアンと並んで米国2大喜劇女優だと思っているのだが、『しあわせの隠れ場所』（2009年：これは観た）でアカデミー主演女優賞やゴールデングローブ賞・主演女優賞（ドラマ部門）など、多数の映画賞を受賞した一方で、同じ年に公開された『ウルトラ I LOVE YOU!』ではゴールデングローブ賞最低主演女優賞と最低スクリーンカップル賞を受賞した。同じ年にアカデミー賞とゴールデングローブ賞をダブル受賞したのは史上初で、ラジー賞受賞式にも彼女は出席したというからホンマもののコメディアンだな。

ラズベリー賞というのはアメリカの映画賞で、毎年アカデミー賞授賞式の前夜に「最低」の映画を選んで表彰する賞。ラジー賞（Razzies）とも呼ばれる。「ヤジ」を意味する「Razz」から命名された「Razzie Award」が正式な賞名であるが、「Razz」のもうひとつの意味である「Raspberry」（ラズベリー：ホイチゴ）の実を模したトロフィーのデザインにより「Golden Raspberry Award」とも呼ばれる。

彼女は東日本大震災に際して、いち早く義援金を寄付したらしい（Wikipediaより）：

2011年3月11日に東日本大震災が発生した際、ハリウッドの俳優の中で真っ先に義援金として100万ドル（約8000万円）を寄付した。のちに当時を振り返り、「幸運にもわたしはそういう支援できる環境にあるから、やるべきことを行っただけ」と行動に至った経緯を明かした。義理の兄弟に日本人とアメリカ人のハーフがいるというサンドラは、自身が行った寄付について「これまで意味をなさなかったお金が、必要とされる場所で理にかなった使われ

方をしただけなの。またそれを寄付することで、新たな息吹が目覚めるとも思ったわ」とコメントした。また、「日本人であろうとなかろうと、わたしたちはみんなつながっていると思っている。もし、同じような被害をアメリカが受けたら、日本はきっと同じことをしてくれるとも信じているわ!」と話した

12月15日（日）晴れ

定刻に成田着。バスで水戸へ。繰り返すが、今回もまた怪我にも病気にも盗難にも遭わずにすんだ無事に感謝。

次回ウィーンは来年の2月、真冬だ。

そうそう後日談だが、帰路の座席変更に伴う払い戻しは2月に無事終了。今回の渡欧は自費でなくて依頼だから、オーストリア航空東京支社へ説明し払い戻しを受けるのはその依頼元なのだ。だが、旅行社が払い戻せるのは旅行者本人だということ、まずは旅行社から旅行者である僕に支払われ、僕が依頼元に支払うことになる。最初は、僕のチケットに対しては払い戻しは無効とまで聞えていたが、事なきを得てよかった。処置してくれたFさんに感謝。

【 付 録 】 複素数のへエ〜

1. 負数の対数は複素数である

オイラーの公式 $\cos \theta + i \sin \theta = e^{i\theta}$ において、

$$\theta = \pi/2 \text{ とおけば } i = e^{i\pi/2} \dots\dots\dots (1)$$

$$\theta = \pi \text{ とおけば } -1 = e^{i\pi}, \text{つまり } e^{i\pi} + 1 = 0 \dots (2)$$

$$\theta = -\pi/2 \text{ とおけば } -i = e^{-i\pi/2} \dots\dots\dots (3)$$

ここで、式(1)の両辺を i 乗すると

$$i^i = (e^{i\pi/2})^i = e^{-\pi/2} \dots\dots\dots (4)$$

であり、一方、式(1)の両辺の i 乗根をとると

$$\sqrt[i]{i} = \sqrt[i]{e^{i\pi/2}} = (e^{i\pi/2})^{1/i} = e^{\pi/2}$$

となる。面白いことに、虚数単位 i の i 乗と i 乗根は実数だ。また、式 (2) から

$$i\pi = \ln(-1)$$

という関係が導かれるが、これは負の数の対数は複素数であることを表している。

2. 多価関数一式(4)は間違っている？

三角関数が周期関数であることを考えると、式(4)は充分な表式ではない。

式(4)は式(1)から導かれているから式(1)、そしてオイラーの公式に戻ってみる。

オイラーの公式 $\cos \theta + i \sin \theta = e^{i\theta}$ において、 $\theta = \pi/2$ とおいて左辺の i だけを残したから式(1)の $i = e^{i\pi/2}$ が得られるのだが、左辺に i だけを残せるの

は $\theta = \pi/2$ だけではない。

$\cos \theta, \sin \theta$ は周期が 2π の周期関数であるから、 k を整数として、

$$\cos \theta + i \sin \theta = \cos(\theta + 2k\pi) + i \sin(\theta + 2k\pi)$$

である。ここで $\theta = \pi/2$ とおけば、

$$i = e^{i(\frac{\pi}{2} + 2k\pi)} = e^{i(\frac{1}{2} + 2k)\pi}$$

であり、これが正解。 $k=0$ の場合は主値と呼ばれる。

2. $\cos \theta = 2$

三角関数にも面白いことが起こる。 θ を実数と定義すれば $\cos \theta$ の値は $-1 \leq \cos \theta \leq 1$ の範囲にとどまるが、 θ に複素数を許せばどうだろう。

$\cos \theta = 2$ を考えてみよう。 $\theta = x + iy$ (x, y は実数、 $y \neq 0$) とする。

$$\begin{aligned} \cos \theta &= \cos(x + iy) = \cos x \cosh y - \sin x \sinh y \\ &= \cos x \cosh y - i \sin x \sinh y \end{aligned}$$

ここで、 \sinh, \cosh は双曲線関数である。

実数部と虚数部を比べれば、 $\cos x \cosh y = 2, \sin x \sinh y = 0$ でなくてはならない。両式を満たす値は、 $x = 2n\pi$ (n は整数) および $\cosh y = 2$ であり、 $\cosh y = (e^y - e^{-y})/2 = 2$ から y を解いて、 $y = \ln(2 \pm \sqrt{3})$ 。よって、

$$\theta = 2n\pi + i \ln(2 \pm \sqrt{3})$$

とすれば $\cos \theta = 2$ とすることができる。

4. 整数の二つの平方の二つの積は、常に二つの平方の和として二つの違った方法で表すことができる

たとえば、

$$\begin{aligned} (2^2 + 3^2)(4^2 + 5^2) &= 533 = 7^2 + 22^2 = 23^2 + 2^2 \\ (17^2 + 19^2)(13^2 + 15^2) &= 256,100 = 64^2 + 502^2 = 8^2 + 506^2 \\ (89^2 + 101^2)(111^2 + 133^2) &= 543,841,220 \\ &= 3,554^2 + 23,048^2 = 626^2 + 23,312^2 \end{aligned}$$

など。例は無限にある。

a, b, c, d, u および v は全て異なる整数とすると、

$$(a^2 + b^2)(c^2 + d^2) = u^2 + v^2$$

が成り立つ。左辺を複素表示すれば一目瞭然だ。

$$(a^2 + b^2)(c^2 + d^2) = (a + ib)(a - ib)(c + id)(c - id)$$

ここで、

$$u^2 + v^2 = (u + iv)(u - iv)$$

に対して、

$$u + iv = (a + ib)(c + id) = (ac - bd) + i(bc + ad)$$

とおいた場合と、

$$u + iv = (a + ib)(c - id) = (ac + bd) + i(bc - ad)$$

とおいた場合と二通りに書ける。前者であれば、

$$u = |ac - bd|, v = bc + ad$$

となるし、後者ならば、

$$u = ac + bd, v = |bc - ad|$$

を得る。

5. i から π を計算する

i と π が、たとえば上記の式 (2) のように関係づけられているのだから、 i から π を計算することが出来るだろう。式 (2) を次のように書く。

$$\frac{i\pi}{2} = \ln i = \ln \left(\frac{1+i}{1-i} \right) = \ln(1+i) - \ln(1-i)$$

ここで現れる二つの対数を冪級数展開する。つまり、

$$\ln(1+i) = i + \frac{1}{2}i - \frac{1}{3}i + \frac{1}{4}i - \frac{1}{5}i + \frac{1}{6}i - \dots$$

$$\ln(1-i) = -i + \frac{1}{2}i - \frac{1}{3}i + \frac{1}{4}i - \frac{1}{5}i + \frac{1}{6}i - \dots$$

こうすれば、

$$\frac{i\pi}{2} = 2i - \frac{2}{3}i + \frac{2}{5}i - \dots$$

つまり、

$$\frac{\pi}{4} = 1 - \frac{1}{3} + \frac{1}{5} - \frac{1}{7} + \frac{1}{9} - \frac{1}{11} + \dots$$

を得る。これは別の方法でライプニッツにより発見された式で、「ライプニッツの級数」と呼ばれている。美しくエレガントな式だが、その収束はおそろしく遅く、数値計算上全く役に立たない。

6. ゼータ関数と素数

複素数とは関係ないが、次の式は以前からボンヤリと不思議に思っていた。なぜ連続関数であるゼータ関数に離散的な数字である素数が入って来るのだ。

$$\zeta(z) = \prod_{p \text{素数}} \left(1 - \frac{1}{p^z}\right)^{-1} \dots \dots \dots (5)$$

ここで $\zeta(z)$ はゼータ関数で、正の整数の逆数の和、つまり

$$\zeta(z) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^z} = 1 + \frac{1}{2^z} + \frac{1}{3^z} + \frac{1}{4^z} + \frac{1}{5^z} + \dots \dots \dots (6)$$

である。この関数は z が偶数ならば収束する。たとえば $z=2$ の場合は

$$1 + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{4^2} + \frac{1}{5^2} + \dots = \frac{\pi^2}{6}$$

である。しかし奇数のときは収束することがわかっていない。少なくとも $z=1$ 、すなわち正の整数の逆数の和は収束しない。

$$1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \frac{1}{4} + \frac{1}{5} + \dots = (\text{一定値にならない})$$

さて、上の式 (5) だが、これは次のように導かれる。
まず定義 (6) の両辺に $1/2^z$ を掛ける。

$$\frac{1}{2^z} \zeta(z) = \frac{1}{2^z} + \frac{1}{4^z} + \frac{1}{6^z} + \frac{1}{8^z} + \frac{1}{10^z} + \frac{1}{12^z} + \dots$$

この式を $\zeta(z)$ から引くと、

$$\left(1 - \frac{1}{2^z}\right) \zeta(z) = 1 + \frac{1}{3^z} + \frac{1}{5^z} + \frac{1}{7^z} + \frac{1}{9^z} + \frac{1}{11^z} + \dots$$

この式の両辺に $1/3^z$ を掛ける。

$$\left(1 - \frac{1}{2^z}\right) \frac{1}{3^z} \zeta(z) = \frac{1}{3^z} + \frac{1}{9^z} + \frac{1}{15^z} + \frac{1}{21^z} + \frac{1}{27^z} + \dots$$

これを $(1 - 1/2^z)\zeta(z)$ から引く。

$$\left(1 - \frac{1}{2^z}\right) \left(1 - \frac{1}{3^z}\right) \zeta(z) = 1 + \frac{1}{5^z} + \frac{1}{7^z} + \frac{1}{11^z} + \dots$$

この操作を素数、5、7、11... と永久に繰り返す (素数は無限個存在することは数学的に証明されているらしい)。そうすると、仕舞いには、

$$\left\{ \prod_{p \text{素数}} \left(1 - \frac{1}{p^z}\right) \right\} \zeta(z) = 1$$

に到達し、両辺を { } で割れば式 (5)

$$\zeta(z) = \prod_{p \text{素数}} \left(1 - \frac{1}{p^z}\right)^{-1} = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^z}$$

を得る。お見事。